

河南町下水道事業経営戦略（案）の意見募集の実施結果について

1. 意見募集の実施状況

◆募集期間

令和3年3月11日（木）～令和3年3月25日（木）

◆コメントの提出数

1件（提出方法：メール1件）

2. パブリックコメントの内容

No.	コメントの内容	コメントに対する町の考え方
1	<p>P.1①施設の表で処理区域内人口が14,555人となっており、この数字から河南町内のほとんど全域を下水道処理の対象とした計画になっていると推察する。かなり前の記憶であるが、基本的に市街化区域およびその隣接地ぐらいが下水道処理の対象で、それ以外の区域は浄化槽による汚水処理と使い分けていた考えが主流にあった。人口密度が低い地域は浄化槽による汚水浄化方式にした方が都市としての経営はもう少し健全であったかと思う。しかし当町はほとんど全域を市街化区域同等の扱いで整備してきたのを今更変えるわけにもいかないの、いまだ未整備区域は浄化槽方式に戻すことで将来負担の軽減はできないか。</p>	<p>下水道の効率的な整備は、下水道事業の経営において重要なテーマであると認識しております。</p> <p>下水道事業は人口減少下において計画区域内の整備や維持管理を適切に行うため、南河内4市町村下水道事務広域化協議会の発足、下水道ストックマネジメント計画の策定等を行ってきました。</p> <p>下水道未普及地域につきましては、整備費用や効果に留意しながら、計画する必要があります。</p> <p>したがって本計画の4ページ「5. 投資・財政計画（収支計画）①収支計画のうち投資についての説明」中、「未普及地域に管路施設の整備を実施する予定である」を「投資効果を踏まえつつ、未普及地域に管路施設の整備を実施する予定である」に変更いたします。</p> <p>いただきましたご意見は、事業を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
2	<p>P.2の3将来の事業環境、処理区域内人口の予測でもまちづくり計画での人口予測のうち、悲観的な予測を採用しているが、下水道事業だけでなく全庁的に将来人口の戻す様子について危機感が低く、世間でコンパクトシティという言葉が謳われる昨今、都市間で競争して人の取り合いを何が何でもやって勝ち抜くという考えを市内のあらゆる分野で共有して施策展開しないと、負けたらどこかの市に吸収合併された上、財源を持ち去られ、河南町域は江戸時代並の山林原野に戻ってしまう。下水道事業だけでなく、人口をベースにした施策がほとんどであり、いま全面的に意識改革の時かと思う。</p>	<p>本町の下水道事業は人口減少と人口の低密度化、下水道資産の更新時期の到来等、今後予想される経営環境は厳しさを増していきます。</p> <p>こうした下水道事業を取り巻く環境が変化していく中、人口減少を重要な課題と捉えて、本経営戦略を作成したものです。</p> <p>本町下水道事業の取組みとして、水洗化率の向上等、下水道をご利用いただく方の増加に努めます。</p> <p>いただきましたご意見は、事業を検討する際の参考とさせていただきます。</p>